



第28回
全日本大学男女選手権大会

●平成5年8月7日(土)～9日(月) ●山口県宇部市/東部体育広場

日ソ協記録委員 有吉 道夫

(男) (子)

京都産業大、初制覇!

— 京産大・馬場、沖縄国際大・儀保完全試合達成 —

8日7時、広重市郎宇部市協会会長の始球式でプレイボールとなった。特筆すべきは今大会、二つの完全試合が達成されたことである。

一つは、初日B球場で、沖縄国際大・儀保信虎投手が対聖徳学園岐阜教育大戦で14三振を奪い完全試合を達成、一方は京都産業大・馬場智久投手が持ち前の速球を武器に強豪・日本体育大を相手に、11三振を奪う力投で完全試合を達成した。

以下、準決勝、決勝戦を追ってみると、準決勝の中京大対東海大は、東海大が1回裏、二死満塁のチャンスを選んだのに対し、中京大は3回表、東海・安部投手の制球難につけ込み、2四球と送りバントで二死一・二塁とし、4番・石井のセンター前安打で先ず1点

標記大会が「緑と花と彫刻」の街、かつて炭鉱の街として栄えた宇部市で、8月7日から3日間にわたり開催された。試合に先立ち、前日、文化会館で13時から監督・主将会議、14時から

続く5番・内藤、6番・大崎の連続安打と敵失で3点を加点し試合を決めた。

一方、京都産業大対山梨学院大は、京都産業大が友田の本塁打を含む毎回8安打で5点を入れ完勝した。

京都産業大は2回、二死二塁から8番・寺西の強襲安打で先取点を入れ、4回にも1点、さらに5回には二死一塁から4番・友田の2点本塁打で追加点を挙げた。7回にはこの日当たっている友田のタイムリーでダメを押した。山梨は6回に無死一・二塁のチャンスがあつたがあせりが先行し、得点に結びつかなかった。

決勝戦の京都産業大対昨年の覇者・中京大は、京都・馬場、中京・西野の投手戦となつたが、京都産業大が4回の唯一のチャンスをもものにして初制覇に輝いた。

京都産業大はこの回、先頭・由良が内野安打で出塁。二死から4番・友田が中越えオーバーの2ランを放ち試合を決めた。

一方、中京大も6回、無死二・三塁

審判・記録会議が行われ、開会式が17時から陸上競技場で行われた。開会式では、各地区の予選を勝ち抜いた男子32チームと女子24チームが母校の名譽を背に、栄光の座を目指して堂々の入場行進をした。

のチャンスがあつたが、好投手・馬場に後続を断られた。

全体を通して、各チーム共力が接近しており好勝負が多かつた。

① 決勝戦 (11時2分～12時32分)

京都産業大 0 0 0 2 0 0 0 0
中京大 0 0 0 0 0 0 0 0

(京) ○馬場—横山
(中) ●西野—石井
▽困友田(京) ㊦中島(中)

(審) P清水 1篠原 2峯 3福嶋
(記) 深澤

② 準決勝戦 (8時49分～10時28分)

中京大 0 0 4 1 0 0 0 0
東海大 0 0 0 0 0 0 0 0

(中) ○西野—石井
(東) ●安部—岡林
▽三柳本(中) ㊦笹岡(東)
(審) P峯 1沖井 2三上 3松田
(記) 米沢



宿敵・日体大を破り喜びに沸く東女体大

8度目の優勝飾る 東女体、宿敵・日体大を破り

女子

準決勝戦 (8時52分〜10時23分)
 京都産業大 0 1 0 1 2 0 1
 山梨学院大 0 0 0 0 0 0 0
 (京) ○馬場―横山

(山) ●石塚―水江
 ▽困友田 (京) □由良 (京)
 (審) P吉井 1福嶋 2久保田 3清水
 (記) 関

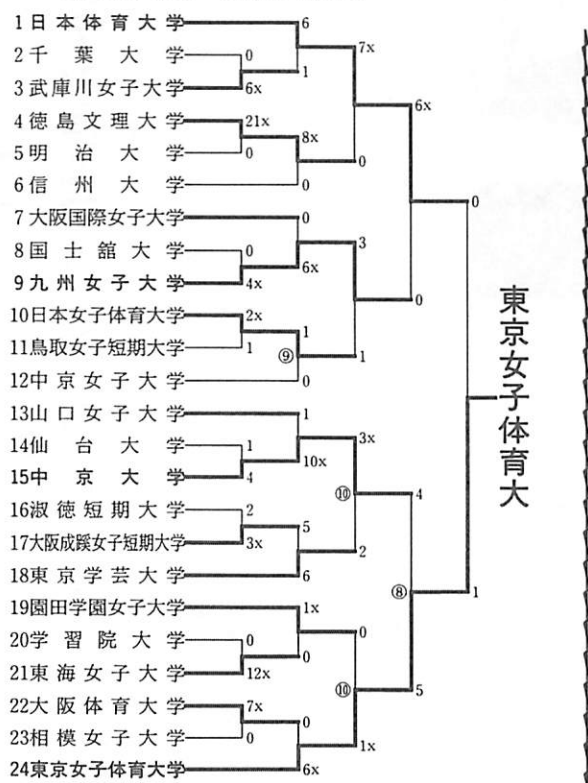
準決勝戦の九州女子大対日本体育大は、日本体育大が5回裏、清水、七海の連続安打で一死、一・三塁とし、新井の右前タイムリーで1点を先取、さらにショートエラーの間に2点目を入れた。続く6回にも二塁打を含む5安打の猛攻で4点を挙げ決勝戦へ駒を進めた。

一方の東京女子体育大対中京大は、東女体2―4で迎えた6回表、川崎、大島、藤本の連続安打で同点に追いついた。延長8回、東女体は満塁のチャンスに代打の地元・宇部女高出身の秦が犠飛を放ち1点を入れ逃げ切った。

決勝戦の東京女子体育大対日本体育大は、前年度と同じ顔合わせ。今年も

第28回 全日本大学選手権大会

93年8月7日(土)〜9日(月)
 山口県宇部市・東部体育広場 (女子)



(男子)

